



『じいちゃんの^{あか}赤いスニーカー』

本田有明／作 しらこ／絵 佼成出版社 2025
小学3年生の翔平に友達ができました。その友達は目が不自由で年の離れた「じいちゃん」です。じいちゃんは翔平の話を優しく聞いてくれます。学校や家で悩みを抱える翔平ですが、じいちゃんに元気をもらいます。2人の心温まる交流が描かれた物語です。



『じんせい は しがみついて なんぼです』

木坂涼／詩 長谷川義史／絵 フレーベル館 2025
「じんせい は しがみついて なんぼです」(「コアラ」より)。いろいろな動物たちの心の声が詰まった、ユニークな動物の詩の本です。動物たちも、人間と同じように考えて、つぶやいているのかもしれないですね。



『こねずみくん、ききいっぱつ!』

ヘルダ・デ・プレーター／作 テー・チョンキン／絵 鷯木 桂／訳 徳間書店 2025
おじいちゃんを食べた悪者フクロウが、ネズミー族をねらっていることを知ったこねずみくんは、それを伝えるために急いで帰ります。途中いろんな動物に会い、危険なめにありますが、そんな時「強くないものはかしくあれ」とおじいちゃんの声が聞こえてくるのです。

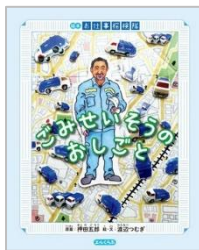


『ひめゆり学徒だった山内祐子さんが沖縄の高校生に伝えたこと』

渡辺考／著 講談社 2025
第二次世界大戦の終わりに「ひめゆり学徒隊」として沖縄戦で戦った山内祐子さんに、沖縄県立向陽高校の女子生徒たちが取材をしました。戦後80年が経過した今ですが、たくさんの人々の人生に暗い影を落とした戦争について今一度考えてみましょう。

なつ
夏
の
もう1冊!
なつ
夏におすすめのブックリストをつくりました。
おもてさつてあたびしゅぱつ
思い出の1冊に出会う旅に出発しませんか!

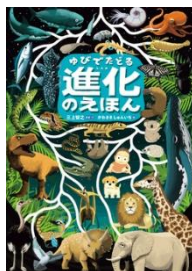
このブックリストは出版者の許可を得て表紙を掲載しています。
2026年7月
発行：宮崎県立図書館 児童図書室(こどもしつ)
電話：(0985) 29-2596



『ごみせいそうのおしごと』

押田五郎／原案 渡辺つむぎ／絵・文 解放出版社 2025

わたしたちは、ごろうさんたちゴミ清掃員のおかげで、きれいに生活することができています。ごみはだれがあつめるのか、あつめたごみはどこに行くのか、ごみせいそうのおしごとはどうして大切なのかなど、ごみ清掃の仕事を楽しく学べる本です。



『ゆびでたどる進化のえほん』

三上智之／監修・文 かわさきしゅんいち／絵

KADOKAWA 2025

最初は小さく単純だった生きものは、長い時間をかけていろいろなすがたに進化しました。どんなにちがっても生きものはおなじ祖先からわかれた遠い親せきなのです。この本は190種以上の生き物の進化を「たどりあそび」で体験できます。



『ぼくらとモリボウのひみつの時間』

実島なほ子／作 武田美穂／絵 ポプラ社 2025

2年生のユウタとレイとハジメは、黄緑色の丸い生き物に「モリボウ」と名前をつけて、学校のうらでこっそり育てます。モリボウは、ドングリや葉っぱを食べて、体がどんどん大きくなっていきます。ある日、モリボウが校長先生に見つかってしまいました。



『そうだったのか!カタツムリとナメクジ』

嶋田泰子／著 はたこうしろう／絵 童心社 2025

カタツムリやナメクジを触ったことがある人も多いことでしょう。じつは、どちらも貝の仲間なのです。この本には、カタツムリの殻やナメクジの粘液、エサや卵を産む時期など、実際に観察して調べたことがたくさん書かれています。

『なないろのはし』

横山佳／作 平澤朋子／絵 BL出版 2025



耳が聞こえないおじいちゃんとそらみは、手話をつかって話をします。ある日、のどじまん大会にさそわれ、歌が苦手なそらみは、おじいちゃんに相談します。すると、毎日のできごとの歌詞に、手や体の動きをつけて歌うアイデアが出てきて、楽しくなってきました。



『夏を走る! 勇気とぼくらのペダル』

高田由紀子／作 かわいちひろ／絵 あかね書房 2025

気が弱く、空手でも勝ったことがないみっちは、夏休みに幼なじみの友達とサイクリングキャンプに行くことになりました。途中で疲れがたまり、タイヤがパンクするなどのトラブルが起こります。サイクリングキャンプを通してみっちは大事なことに気づきました。



『てまりのナゾほどこ帳 出島と秘密の紅い石』

荒川衣歩／著 講談社 2025

てまりは、港町にある古着屋の一人娘です。ある夏の日、冬に着るはてんが店に持ちこまれ、翌日には高く売れてしまいます。しばらくして、また、店にはてんが持ちこまれました。てまりは気になって、はてんのあて布をほどいてみました。すると、中から紅玉(ルビー)が出てきたのです。



『ジャンボタニシに負けるな! 新たな米づくりへの挑戦』

谷本雄治／著 あかね書房 2025

外来種のジャンボタニシが、米農家を困らせています。清水先生とのうぎょうだい がくせい は、ジャンボタニシの捕獲装置の開発に乗りだしました。そんな中、田んぼの近くで、トウキョウサンショウウオが見つかり、豊かな環境でできるお米づくりを、広く知ってもらおう活動が始まりました。